

うさぎの ブランコ



2024.1
46
ふゆ号

【開催報告】

令和5年度 京都府立与謝の海支援学校 医療専門職派遣事業学習会
「医療専門職派遣事業による全校研修」

令和5年度 第2回 事例検討会
「丹後圏域リハビリテーション専門職情報交換会2023」



【今回の表紙】

令和5年度 京都府立与謝の海支援学校 医療専門職派遣事業学習会
「医療専門職派遣事業による全校研修」
詳細については次ページ参照

LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します

丹後圏域地域リハ支援センター公式LINE



令和5年度 京都府立与謝の海支援学校 医療専門職派遣事業学習会 「医療専門職派遣事業による全校研修」

日時：令和5年11月29日（水） 14：30～16：30

会場：与謝の海支援学校会議室、Teams（ハイブリッド形式）

「訪問リハビリテーションにおける 小児疾患に対する成人移行期支援の試み」

講師：京丹後市弥栄病院
訪問リハビリテーション事業所
理学療法士 今西美由紀氏



在宅におけるリハビリテーションの制度や小児疾患の各発達期における課題、成人期における身体機能の変化、成人移行期における課題についてご説明をいただきました。また、ケースを通して訪問リハビリ導入までの経過、在宅における訪問リハビリの経過について発表をしていただきました。

成人移行期における課題



ケースを通して考える成人移行支援

対象者の将来を見据えた目標設定、包括的な支援（多職種での連携）

自己実現

可能性を見出し、
最大限に発揮させる
工夫が必要

- 機能の発見
- 活動の量の確保
- 活動の質の向上

その人
らしい
暮らし

家族
との
暮らし

家族の介護の限界
介助量 > 介護力

生活の見直し

- 本人・家族ともに
負担のない生活
- 環境の調整
 - 介助方法の変更
 - サービス利用

この報告内容は、2024/1/25の第3回事例検討会「障害のある子どもに関わる支援者とリハビリテーション専門職のネットワーク」でも報告予定ですので、みなさまぜひご参加ください！

「子どもの行動の背景を探る

～感覚・運動の視点～

講師：子どもセラピーあわいろ
作業療法士 日下部知恵氏



リハビリ専門職による感覚・運動の視点から、子どもの行動の背景を探ることをテーマに発表をしていただきました。

【子どもの行為・行動には必ず理由がある】

子どもの背景を探り、多角的に子どもの「なぜ？」を深掘りすることが大事

発達性協調運動症とは…

「協調」という脳機能の発達に問題があるために、運動や動作にぎこちなさが生じたり、姿勢に乱れが生じ、日常生活に支障が出てしまう発達障害。

- ・発生頻度：子どもの約5～8%
- ・他の発達障害との併存率：自閉スペクトラム症 (ASD) の約80%
注意欠陥・多動性障害 (ADHD) の約30～50%
限局性学習症 (SLD) の約50%

発達に重要な感覚とは…

触れる = 触覚

物の識別や
探索 危険を感知



揺れる = 前庭覚

重力、揺れ、傾き、
スピードを感じる



動かす = 固有覚

身体の位置が分かる
動かし方が分かる



感覚・運動は生きていく上で
欠かせない土台作りに必要



令和5年度 第2回 事例検討会 「丹後圏域リハビリテーション専門職情報交換会2023」

日時：令和5年11月15日（水） 18:00～19:00

会場：WEB（ZOOM使用）

参加者：17名

令和4年度
リハビリ専門職を対象に
連携に関するアンケート実施



リハビリ専門職の
情報交換会を開催

若手・中堅世代を対象
参加者は少人数であった

情報交換会の目的

令和5年度の事例検討会では、他の事業所やリハ専門職について改めて知る機会をつくり、自事業所外のリハビリ専門職に対して、まずは興味を持ってもらう機会や顔見知りをつくるきっかけ作りとして情報交換会を開催しました。

内容：1) 丹後圏域内の事業所の紹介

丹後圏域内の事業所に対して、事前にアンケート調査を行い、回答して頂いた事業所を中心にスライド資料を作成。簡単な事業所紹介を実施しました。

2) 参加者による情報交換会

参加者を2グループに分けて、グループワークを実施しました。

- テーマ ①日々の悩みや困っていること、現在取り組んでいること
②若手に求めること、ベテランに求めること
③外部のリハビリ専門職と関わるメリットについて

参加者の感想

- ・直接グループワークしたいと思いました。他院のやっていることや悩みなどが共有できてよかった。
- ・先輩方の意見や求めていることを理解する機会があって良かったです。
- ・様々な意見交流ができて良かった。他の施設との交流する事でのメリットを考えることができた。不参加の事業所もあり少し残念でした。
- ・トークテーマが多い為、本質まで話せない感じがした。若手・ベテランの意見交換が必要な印象は受けました。
- ・グループワークの時間はもう少し長く取れると、より良いかなと感じました。
- ・スライドは分かりやすかったのですが、若手の参加人数が少なく意見交換があまりできなかったと感じました。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナ感染対策の緩和に伴い、当センター事業もコロナ前の状態に戻りつつあります。しかし、WEB開催の研修会や会議などは便利で、今後も併用を続けていく予定です。今年度のお気軽サミットは地域リハビリテーション実践交流会にリニューアルして初めての対面（ハイブリッド併用）開催となります。ご自身の状況に合わせて、仕事中にサクッとWEB参加するのも良い、がっつりと対面で参加者間で交流するのも良いので、ぜひご参加ください。（Y.S）

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター（公益財団法人 丹後中央病院）

連絡先：TEL0772-62-8301 FAX0772-62-8302 e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！

